

【都市と美術研究所】発表要旨

都市のパブリックアートと地域の芸術祭

Urban Public Art and Local Art Festivals

藪田尚久(株式会社アートフロントギャラリー／取締役)

YABUTA Naohisa

Director, Art Front Gallery Inc.

株式会社アートフロントギャラリーは、アートディレクター・北川フラムのもと、アートと社会の多様な接点づくりに取り組み、都市の開発事業や地域コミュニティの活性化、また、企業のさまざまな事業展開を支援している。とりわけ、特定の場所とアーティストの出会いによって生まれる「サイトスペシフィックアート」の成立に注力し、社会におけるアートの領域を拡げてきた。

当社が大きく成長したのは、1994 年竣工の「ファーレ立川」のアート計画の実現だった。5.9ha におよぶ米軍基地跡地の再開発事業で、36 か国 92 人のアーティストによる 109 点の作品を、歩道、外壁、消火栓など都市機能物をアート化して展開し、以後の日本各地のパブリックアートのモデルともなっている。

現在、当社事業でもっともよく知られているのは「越後妻有 大地の芸術祭」「瀬戸内国際芸術祭」などの地域芸術祭だが、実はファーレ立川での取り組みと地続きでつながる部分が多い。都市機能物をアート化する手法以上に、参加アーティストの多さや、ツアーを媒介とした地域サポーターの組織、プロジェクトを保持・継続してくための財源確保など、アートが社会に根付くための重要なポイントが多く引き継がれている。

今回の発表ではパブリックアートと地域芸術祭の事例を、それぞれの成立過程を交えて紹介し、都市と地域、双方のアートのありようについて考えたい。また、近年になって地域芸術祭が各地で数多く開催される中、それが大都市にも逆流して新しい事例が生まれつつあることも併せて紹介したい。

略歴

1963 年大阪市生まれ。1991 年にアートフロントギャラリーに入社する。日石横浜ビル、渋谷マークシティ、代官山アドレスなどのパブリックアート計画に携わり、1997 年から「越後妻有 大地の芸術祭」を担当、以後も継続的に関わる。現在、同社取締役。